

「かえりたい『郷』で生きていく。」ことを目指した文化伝承の取組～子供が椎葉をまるごと理解し、生涯にわたってかかわり続けようとする姿を目指して～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
椎葉村立 椎葉小学校	椎葉村立椎葉小学校 学校運営協議会 令和3年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 2名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	椎葉村地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

椎葉村では「かえりたい『郷』で生きていく。」を基本理念とした村づくりに取り組んでいる。一方で、人口減少・高齢化、子供たちが幅広い年齢間でふれあう機会の減少、世代を超えた知恵の継承ができない等の地域課題が浮き彫りとなっている。そこで、学校・地域が課題を共有しつつ、未来を切り拓く本村の児童生徒に対し、ふるさと椎葉村のよさ、人々の思いや願い、知恵、生き方等から学ぶ場を設定することをとおして、椎葉での昔からの暮らしをまるごと理解できるようにするとともに、生涯にわたって椎葉に関わり続けようとする意欲や態度を育成することが求められている。

目標や目指す姿(学校)

ふるさとの自然に学び、互いに伝え合い、たくましく生きる椎葉小の子供の育成

目標や目指す姿(地域)

子供が椎葉をまるごと理解し、生涯にわたってかかわり続けようとする姿



椎葉村立椎葉小学校 学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 公民館長 | <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員 |
| <input type="checkbox"/> 主任児童委員(民生委員) | <input type="checkbox"/> 合同会社社員(地域おこし協力隊出身) |
| <input type="checkbox"/> 地域企業社長(建設会社) | <input type="checkbox"/> 伝統芸能保存会長 |
| <input type="checkbox"/> 民俗芸能博物館長 | など、計 8名 で構成 |
| <input type="checkbox"/> 寺住職 | 年間平均 4回 程度開催 |

効果的な運営の工夫

元々地域と学校のつながりが非常に強く、コミュニティ・スクール制度導入以前に地域と学校の連携・協働が行われていた経緯がある。そこで、学校長がこれまでの蓄積を生かしつつ、制度上の違い(学校評議員制度と学校運営協議会)について説明を行った後、人口減少・高齢化等の課題、そして新たな課題(教育の情報化や新型コロナウイルス対応等)に対して連携・協働して取り組む必要性について共通理解する場を設けた。また、建設的に熟議を進めるために、協議の柱を設定し、記録をとりながら会を進めた。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

地域や学校の実情、それぞれの業務に携わってきた立場から、今後目指す子供の姿や学校や地域が連携・協働して取り組めることを協議した。そして、これまで行ってきた特色ある活動の中で、地域の文化を継承するとともに、地域を理解し、地域にかかわり続けようとする態度を育成できる取組に注目し、具体的にどのようなことを行えばよいのかについて話し合った。



学校運営協議会のようす

地域学校協働活動

学校は日常の学びの成果を披露するとともに、地域理解を深める場として、地域は伝統文化を継承する場として、これまで行ってきたひえつき節に係る取組をとらえなおし、目指す子供の姿を具現化するための学習活動を授業の場で設定した。



ひえつき節披露に向けた指導のようす

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

これまで学校が行ってきた教育活動、地域が行ってきた取組、既存の団体が行ってきた活動は、目的という視点で大きくとらえた場合、一人一人がよりよい生き方を見いだすため、そして地域の活性化を目指した課題解決のため、の2点で整理できる。したがって、既存の取組の中で、地域と学校が連携・協働して取り組むことでそれぞれの目的がよりよく達成できるものを協議をとおして見だし、具体的な活動に落とし込んでいくことが大切であると考えている。

取組

成果・効果

1 「教育に関するアンケート調査(令和4年3月25日)」

- 椎葉村民259人が回答
- 質問内容「あなたは、子どもたちをすこやかに育むために必要な地域での取組は何だと思いますか。」(選択肢の中から3つまで選ぶ)
- 結果 「地域全体で子供を育てていこうという意識を住民がもつこと」が最も多く166件、「子供が安心して安全に過ごせるように見守ること」(124件)や「子供たちへの挨拶や声かけなどを日常的に行うこと」(119件)がその次に多かった。

2 考察

1のアンケート調査から、地域全体で子供を育て、見守る雰囲気があること、具体的にあいさつ・声掛け等で関わろうとしていることがうかがえる。村、地域の宝として子供を捉えていることの表れであり、これまでの取組が年月を経て村民一人一人に根付き確かなものになっているものと思われる。人口減少・高齢化等の課題に対応するために、椎葉村が培ってきた雰囲気や取組を生かすためにも、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施という枠組で既存の活動を捉え直し、広く村民が子供の教育に携わる体制づくりを進めることが大切であり、今後これらに係る成果・課題等についてさらに検証を進めていきたい。